

見上げるとコナラの葉が黄色く色付き青い空と相まって美しさが際立ちます。場所によっては赤く発色した葉が見つかります。サクラの幹にはジョロウグモの卵がいつもより多くありました。

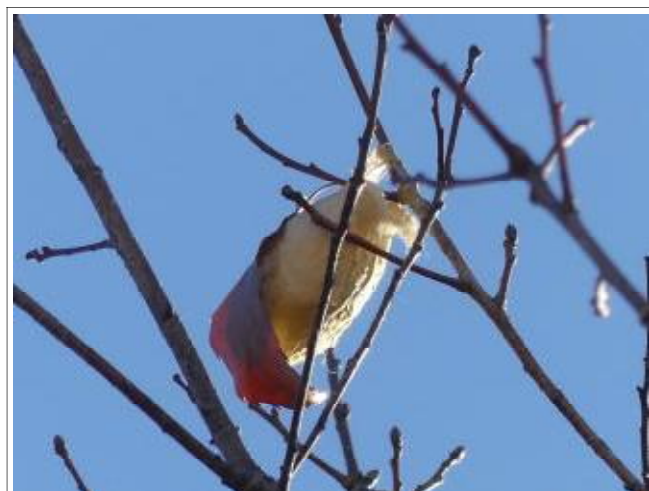
カワウは雛（下:右成鳥、左:雛）が巣立って、島はず



いぶん静かになっています。

池にはカンムリカイツブリ

の大群が浮かんでいました。



ヤママユの空繭（羽化後）

コナラの枝先で、枯れ葉をまとめて・・・

・・・いました。近くでもう一つ見付き、ひょっとしたら卵を産んでいるかと思い近辺を探したらありました。わずか 3 個。去年



見つけたのも 3 個でした。他の枝でもっとたくさん産んでいることと思うことにします。この

秋に羽化して卵に命を託して退場します。来年 5 月頃幼虫が現れるのを期待しています。ヤママユは開張 15cm くらいになる大型の蛾で、数は減って少なくなっています。



ジュウガツザクラ

花の少ない季節にぽっと咲く八重咲きの花はよく目立ちます。おしべがたくさんある中にしっかりしためしべが見えます。三月終わり頃にも咲く二度咲きのサクラです。



アカマツ枯れた幹

下は 2014 年春のもので、根際から何本かに分かれて伸びていました。現在は中ほどの幹



が朽ちか土に戻りかけて・・・

・・・柔らかいところを少しはがしてみたら虫が見つかりました。ヤマトシロア



リの兵蟻と職蟻です。木部を食べて消化できる数少ない生きもので



す。左はシロヘリカメムシの集団越冬のようすです。

Aグループ (5点)	Bグループ (3点)	Cグループ (1点)
③×5=15	⑤×3=15	⑥×1=6
2023/12/14 愛知池		
15 + 15 + 6 = 36		

土壌生物の観察

落ち葉を栄養にして豊かな土壌を作るのに貢献している落ち葉の下に暮らす生きものを調べました。午前 11 時から 40 分ほど林の縁の落ち葉をかき分けたら 14 種類が目にとまりました。これを A ~ C にグループ分けし、出現数の多さを元に点数をつけ評価したところ 36 点になりました。今回と同じ場所で調べた 2021 年 12 月の記録は 30 点でほぼ同じでした。日頃目にするここのない落ち葉の下に多様な生きものを観察することができたことは有意義でした。


A アカズムカデ 30mm




巻き貝類
直径 2mm




B イシムカデ類 15 mm




カニムシ類 1.5mm




C トビムシ類 2.5mm



ヒメミミズ 15mm



ネズの冬芽
やせ地に生える木で、雄株の枝先、少し白っぽい新しい枝に見られます。4 月頃咲きます。



左：アダソンハエトリ、右：ネコハエトリ
体長 10mm。糸で囲われた巣の中で冬越しをします。




植物 チガヤ実、ジュウガツザクラ、シャシャンボ実、ミヤマガマズミ実、ツブラジイ落果多数、クチナシ実多数、オニグルミ落果、イソノキ実の殻、冬芽(ヤマモモ雄花、リョウブ、オニグルミ)、紅葉(コナラ、イソノキ、タカノツメ)、
昆虫 キタキチョウ、みの虫(オオミノガ、ネグロミノガ)、虫の声、アミガサハゴロモ外来種産卵痕、イセリアカイガラムシと一齢幼虫、シロヘリカメムシ多数で越冬、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、ヤマトシロアリ職蟻・兵蟻
土壌生物 ヒメミミズ、トビムシ類、ダニ類、ニホンヒメフナムシ、オカダンゴムシ、タマキノコムシ類、カニムシ類、ウメマツオオアリ、トビイロシワアリ、オチバカニグモ類、ヒゲジロハサミムシ、不明甲虫類幼虫、アカズムカデ、イシムカデ類、巻き貝類、
蜘蛛 ジョロウグモと卵のう多数、チュウガタシロカネグモ幼体、ネコハエトリ、アダソンハエトリ、コモリグモの一種、
鳥、その他 ハシボソガラス、メジロ、カワウと幼鳥、カルガモ、オオバン声をよく聞く、カンムリカイツブリ群、ホシハジロ、キンクロハジロ、マガモ、虫瘤コナラの殻斗周辺・タマバチ類)

次回：1月11日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円